

Q 国民健康保険特別会計の現状と分析は

A 今後も厳しい状況にあると捉えている

稲富 一實 議員

質問項目

1 夢ある朝倉市の共創について



県の不確定な要素が多く、見通しを立てることは難しいが、今後も厳しい状況にあると捉えている。

Q 高騰する医療費の抑制対策は。

A 生活習慣病をはじめとするあらゆる病気の発症や、重症化の予防対策が重要であり、特定健診を受診しての健康管理や、継続して受診することの重要性を啓発し、受診率を向上させたい。

Q 平成30年4月に予定されている国民健康保険の制度改革の内容は。

A 都道府県が財政運営の責任主体となり、中心的な役割を果たしていく。運営主体の拡大によって、今後は財政の安定化が図られると思われる。

Q 過年度分の徴収率が低い。改善への対策は。

A 急速な高齢化や医療技術の進歩で、医療費の更なる増加は必須である。国や

A 適正な収納対策が重要であり、今後も収納対策課と連携して取り組みを進めたい。

Q 荒廃園対策について、現在の荒廃農地の面積は。

A 農業委員会が実施した調査では91・2畝である。

Q 樹園地において荒廃が進んでいる状況で、優良農地を守るために生産性が上がらない農地を農振除外すべきだと指摘してきたが。

A 知事や農水省に話をしているが、現状は非常に厳しい。今後も引き続き国や県に要望し、実現するように努力していきたい。



荒廃園の農振除外を

Q 水の文化村の活用を促進するために、若いお母さん方の要望であるプレイパークを設置してはどうか。

A 県から指定管理を受けており、今後の在り方について、県と協議していく。

Q 美奈宜の杜のCCRC事業を推進している中で、

自然環境を活かした子育て環境を充実すれば、若い世代の移住・定住促進にもつながると思う。また、秋月、水の文化村、三連水車の里あさくら、バサロや原鶴温泉などは観光ルートにも最適であり、水の文化村に付加価値を持たせることで、さらに交流人口の増加も考えられるのではないかと。

Q プレイパークも含め総合的に判断して、水の文化村を良い形にしたいと思う。



大庭 きみ子 議員

質問項目

1 水の文化村の活用について
2 観光振興について

Q 秋月博物館開館に伴い、秋月町中の渋滞解消と駐車場やトイレの拡充が必要だと思いが、考えは。

A シーズン中は、町中の道路を一方通行に誘導し、上秋月小学校跡地を臨時駐車場にしているが、駐車場の土地の確保が難しい。

Q 秋月郷土館長の不適切引用問題のマイナスイメージを払拭するために、館長の選考を透明性のある一般公募にしてはどうか。

A 知識や見識を有する専門職なので、公募は難しい。マイナスになるのかを確認したいので、もう少し時間をいただきたい。

Q 観光行政に100%国の補助がある地域おこし協力隊を活用してはどうか。

A 活用できるものは活用すべく、どういう形で募集するのか、必要な所はどこかなど、各課で話し合いを



水の文化村の有効活用を

Q 水の文化村の活用にプレイパークの設置を

A 検討課題の一つとして県と協議していく

Q 点字ブロックの総延長距離は

A 市内総延長約21キロである

るので、2・5キロ追加となる。

鹿毛 哲也 議員

質問項目

- 1 福祉行政について
- 2 市庁舎建設について



Q 点字ブロックの総延長距離は、十分だと思うか。

A 延長からすると、十分ではないという認識はある。

市道で設置している箇所は旧甘木市の市街地部分が大半を占めている状況で、平成28年度末になると、千代丸堤線の一部が供用開始さ

Q 人権擁護委員連合会では視覚障害の方の人権や命を守るべく、各自治体や事業主に点字ブロックの改善や設置を求めている。朝倉市としての考え方は。

A 整備を行う場合には道路の移動円滑化整備ガイドラインに基づき設置を行っている。どこか道路にも点字ブロックを設置することは厳しい。市としては重点エリアに設置していく。

12時と17時の曲の変更について

Q 現在の防災無線からは12時と17時に同じ曲が流れているが、時間で変更はできないのか。

A 市民への周知を行い、違う曲を流すように変更し

市民を巻き込んだきめ細やかな庁舎建設について

Q 特に1階などのコミュニケーションスペースは、市民の声を聞いて庁舎建設を進めるべきでは。

A 1階の多目的広場については、面積や用途の一定の考え方を整理した上で、パブリックコメントや、メール等での意見も取り入れた。また、市民の声を聞くことについては、ある程度設計ができた段階で考えを聞くような手順で進みたい。

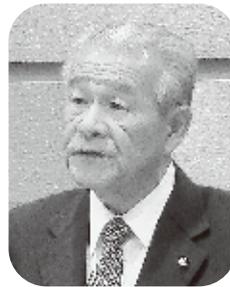


点字ブロックの破損は命にかかわる

Q 農業生産基盤の維持確保対策は、今まさに農業法人を含めた担い手の育成のスピードと、農業経営者の高齢化のスピードとの待ったなしの時間との競争であり、今こそ10年先、20年先を見据えた抜本的改革による農業生産基盤の維持確保

を図るべく、農業経営者、JA及び行政が三位一体となつて、大胆かつ的確な営農組織化を早急かつ強力に推進すべきであると考えますが、市長の考えは。

A 県、JA及び関係機関と連携しながら、市としてもその方向でしっかり取り組みをさせていただきたい。



小島 清人 議員

質問項目

- 1 農業振興施策について
- 2 地域活性化について

Q 「食と農の景勝地」認定による地域活性化を認定を受ける方向で取り組みたい

A 認定を受ける方向で頑張っており、今後積極的に事業の推進に努めていく。

Q 認定を受けるとして認定する制度を活用し、3市域をまとめて一体的に活性化、浮揚発展の起爆剤として制度導入することへの市長の考えは。

農業振興と農村環境の保全



事業は一步一步、慎重にやるのがふさわしい

見直しの中で後年度に行うことも1つの選択肢

中島 秀樹 議員

質問項目

- 1 財政見直しについて
- 2 交通弱者に優しいまちづくりについて



合的体育施設の建設については色々議論がある。過去に紆余曲折があり、整備がなされていない。今がよい時期であると正直に思い、つくるべきだと計画を進めてきた。

一方、財政見通しが少しずつ単年度赤字になる恐れがあるのならば、ここで一旦立ち止まって考えることも必要だ。このスタンスはずっと持っていたので、どうするかを判断することも大事なことだと思っている。

財政状況が悪かったならば、立ち止まって大型事業を考え直す理解して本当にいいのか。

財政の基本は、入るを量りて出ざるを為す。一遍にやる必要はない。立ち止まって二つ三つやっていくことが今の朝倉市にふさわしいと考える。副市長はどう思うのか。

財源が一番の問題である。大型事業は税金だけでは足りないの、基金を約40億円取り崩す計画である。合併特例債は平成32年までだが、基金は温存すればその後でも使える。市長が言う見直しのなかで、後年度も一つの選択肢ではないか。

体育施設が必要だという考え方は変わらない。ただ、将来、市民に対して一定の行政サービスがでなくなるような状況にな

市長は、財政と大型事業について、前日の一般質問に対し、「全体的な将来にわたつての見直しを考えていかなければならないと考えている」と答えている。どんな気持ちで言ったのか。

問題は朝倉農業高等学校の跡地の活用であり、総合的

財政均衡は古今の鉄則



財政均衡は古今の鉄則

大野城市は平成27年度の職員採用について、市内に居住することを条件に4人を採用されたとのことである。例えば1年で4人が移住し市民として残れば、単純計算で10年で40人増え、将来的には家族が増え、子供も増える。定住、移住は

本市の衰退を防ぎ、活性化が期待されると思うが。

地方公務員法第15条に、職員の任用は、受験成績、人事評価その他の能力の実証に基づいて行わなければならないと規定されており、競争試験等によるものとする大前提がある以上、地元出身者だけの採用枠を設けることは困難である。

桂川は様々な対策工事が行われているが、最終的には排水ポンプの設置を考えるべきである。



今福 勝義 議員

質問項目

- 1 市職員採用について
- 2 桂川水門について

桂川水門への排水ポンプ設置に関する要望活動の強化を

大雨時に河川の水門を閉めると、水が行き場を失い、家屋や農地など浸水するのは自然の原理である。

しかし、職員ができる限り市内に住んでほしいという気持ちは同じなので、職員に働きかけて市内居住をお願いしていく。

排水ポンプによる強制排水が実施された場合、浸水状況の改善見直しと設置費用はいくらか。

国が策定している筑後川水系河川整備計画に桂川の排水ポンプ計画はなされていないので、改善見直しや事業費の試算はなされていない。

実現に向け、県内の議員先生方に力になってもらい、排水ポンプ設置の要望活動をお願いしたい。



早急なる排水ポンプの設置を

市職員の採用に地元出身者だけの枠を設けては

朝倉市としての実施は困難である